



株式会社エクストランス

X-MON3.13.1

アップデート内容

## X-MON 3.13.1 アップデート内容

---

Red Hat Enterprise Linux(以降 RHEL) 6/7 環境から RHEL 8 への移行に対応した、X-MON をリリースいたしました。

RHEL 6/7 環境へインストールした X-MON のバックアップを、RHEL 8 へインストールした X-MON へリストアが可能です。

### NRPE や NSClient++エージェントを使用し監視を行う環境がある場合の、移行時の注意点

RHEL 8 環境の X-MON から NSClient++を用いた Windows Server 監視を実施するには、事前に NRPE エージェントと NSClient++エージェントをアップデートする必要があります。

NRPE エージェント :

3.10.0 以前の X-MON バージョンを使用して NRPE エージェントを被監視環境へインストールしている場合、マニュアル「[NRPE アップデートマニュアル](#)」をご参考の上、エージェントの更新をお願いします。

NSClient++エージェント :

バージョン 0.3.9 のエージェントを被監視環境へインストールしている場合、サポートサイトよりパッケージをダウンロードの上、マニュアル「[NSClient++アップデートマニュアル](#)」をご確認いただき、エージェントの更新をお願いします。

また、更新した NSClient++では、ファイルサイズ監視のパフォーマンスグラフで描画される値の単位はバイトに換算するようにしました。

前バージョンでは、監視値の単位に合わせて換算していました。

このため、これまでキロバイト、メガバイト等で描画されていたパフォーマンスグラフにおいて、NSClient++アップデート以降で監視値としきい値が大きくなりますが、これはバイト単位に換算された影響によるものです。

なお、この現象に伴う監視への影響はありません。

## 不具合修正

---

前バージョンで発生していた、以下の不具合を修正しました。

### 監視設定

- HTTPS 通信のみを許可している X-MON で、Twilio のボタン操作付き通話設定が正常に動作しない。
- 被監視環境 CentOS 8 / CentOS Stream 8 よりホスト登録コマンドを実装した場合に、正常にホスト及びサービスが登録されない。
- 拡張 MIB の一部で、検知した TRAP と紐づくサービスの通知が、正常に行われない場合がある。
- Oracle 監視プラグインでサービス名に「.」が使用できない。

### エスカレーション関連

- エスカレーションコマンド「windows\_restart」で、Windows サーバが再起動できない場合がある。
- エスカレーションコマンド「iis\_restart」で、Windows サーバの IIS が再起動できない場合がある。

### 表示関連

- X-MON の標準で登録している MIB ファイルの一部が、MIB ブラウザ機能に表示されない。
- グラフチューニングを行った fluentd 監視のグラフが、正常に表示されない場合がある。
- 全体設定で警告音を消していても、ビジュアルマップで鳴る。
- GoogleChrome ブラウザのみ、グラフの表のヘッダーが異常なサイズとなる。

### 管理機能

- 規定(8GB)以上のサイズを持つバックアップを取得しようとした場合、データベースの情報が欠落する。
- サーバ上でのバックアップ取得時に、空き容量が無いにもかかわらず処理が実行される。

その他軽微な不具合修正を含みます。